

今週の富大生

Weekly TOMIDASEI

第18号

理工学教育部
地球生命環境科学専攻
博士3年
富山県立砺波高等学校
(富山県)

「わからないこと」を追求し続けて博士課程へ



答えがわからないことを学びたい

高校の勉強では数学が好きで、なんとなく理系に進みたいという気持ちがありました。中でも漠然と温暖化や地震のことに興味を持っていました。高校の先生から「地球科学」という分野の学問があることを教えてもらい、富山大学の理学部地球科学学科（現在の都市デザイン学部・地球システム学科）への進学を決めました。

入学後の戸惑いも

現在の富山大学理学部は入学して2年次から専門分野に配属されるしくみに改組されましたが、当時は受験時からすでに学科が分かれています。地球科学科では特殊な学問分野が学べるので、入学後のオリエンテーションで「気象を学ぶために入学しました!」「地質を学びたいです!」という明確な目的意識を持った学生が多く、戸惑いもありました。

3年次で出会った古地磁気学という学問

現在所属している研究室の川崎先生の講義を受け、そこで興味を持つ学問に出会いました。内容は、車や工場などの人為起源の重金属汚染を環境磁気学的手法を用いて明らかにするというものでした。生活するうえで自分にも影響しうる目に見えないもの（重金属）を数値で表すことができるということに興味を持ち、講義のあと川崎先生に詳しい話を聞きに行きました。

研究の楽しさに目覚め、修士へ

実は大学4年次に企業への就職内定が決まっていた。しかし卒論のための研究を始めてみると、とても楽しくて、わからないことをもっと知りたいという気持ちが降り、家族を説得して大学院に進むことにしました。修士課程を修了したあとは、修士でわからなかったことをもっと追求したいという想いが強くなり、迷いなく博士課程に進みました。

ふとした疑問がきっかけとなり学会で受賞

自分がやっている古地磁気学や岩石磁気学はツールとしても様々な分野に応用が可能です。いろんな分野での計測に使われているのに、なぜ活断層の研究に使われていないのだろうと疑問に思いました。そのことを活断層の調査を行っている立石先生に相談すると、「やってみよう」と言っていたら研究が始まりました。立石研究室の修士2年の学生と、同じ研究対象をそれぞれの測定方法で調査しながら進めた結果、日本活断層学会2024年学術大会で優秀講演賞をW受賞するという結果になりました。面白みを追求したいという気持ちで始めた研究でしたが、このような評価につながり、とても嬉しいです。



母校の後輩へ

大学は自分の可能性を広げる場所です。やりたいことは入学後でも、いくらでも見つかります。まずは後悔の無いよう精一杯頑張らしましょう!